

令和4年度 学校自己評価表(報告)

学校運営計画				
学校運営方針		1 「工業をもて人を益せん」の精神のもと、匠の技と現代的技術を兼ね備えた技術を習得し、ものづくり産業の発展を担う人材を育成する。 2 健康の増進と体力の向上をはかり、他者を思いやり、多様性を尊重し、新たな次代を切り拓くために必要な倫理観をもった、豊かな人間性の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
重点目標1:全校で実施したSNS授業では、インターネットの特性とトラブル回避のための対応方法を指導した。また、いじめ認知時には、チームで素早く対応できた。 重点目標2:コロナ禍の影響を受け、当初計画した進路行事に制限や中止もあったが、各学年団で連携し、進路希望実現に向けて、外部講師を招いた進路ガイダンスを可能な範囲で実施した。また、基礎学力向上のための診断テストや学習講演会を実施した。 重点目標3:基本事項、基礎学力の定着を図るために、基本事項から発展的な内容までを踏まえた学習プリントを作成して授業展開し、理解を深められるように工夫した。 重点目標4:生徒会役員と規律委員が連携し、目標達成に向け地道に活動している姿が見られた。 重点目標5:人権への問題意識や社会参加意識の形成が生徒に見られた。 重点目標6:地域貢献する活動が進んでいることや、コンテストの成績及び資格取得状況において一定の成果が出た。 [まとめ]今年度の学校自己評価はA評価となった。引き続き、目標設定について不断の見直しを行い、本校の特色化を進め、高評価を維持するよう努めている。	1 規範意識を高め、基本的生活習慣の定着を図る。	1 挨拶と高校生らしい身だしなみを身につける。 2 社会ルールの遵守を身につける。		
	2 希望進路の100%実現を図る。	1 進路相談、企業訪問活動を充実する。 2 3年間をとおした進路指導を行う。		
	3 基礎学力の定着を図る。	1 わかりやすい授業を工夫する。 2 学習習慣を身に付ける。		
	4 部活動のより一層の活性化を図る。	1 生徒の部活動加入をすすめる。(1年生原則全員加入) 2 社会人としての人間性を育成する。		
	5 人権意識を育てる。	1 互いを尊重し、協力し合う学校を実現する。 2 教員研修に励み専門性の向上を図る。		
	6 地域の協力を得て、高度なものづくりを目指す学校づくりを進める。	1 工業実習の改善・充実をすすめる。 2 地域連携の推進(インターシップ等)		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
1	1	全職員で年6回全校一斉の頭髪服装検査を実施し、生徒に高校生らしい身だしなみが身につくよう指導する。	(生徒指導)	B
		年2回「いじめ見逃しゼロスクール運動」として全職員及び規律委員の生徒によるあいさつや声かけをとおして、基本的な生活習慣の定着やいじめを許さない生徒集団を育成する。	(生徒指導)	A
	2	交通安全運動として、春・秋に全職員が通学マナーを指導し、社会のルール遵守を身につけさせる。	(生徒指導)	B
		本校の生活指導の基準を示している「ともに歩む」を配布し、それに則って指導に当たる。 《いじめ対策》定期的に「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める。また、SNS授業をとおして、インターネットの適切な利用方法を身につけさせる。いじめ認知時には、組織的な対応でその解決に取り組む。 分掌等と連携して、高校生としての身だしなみやマナー等に関して適切に対応する姿勢を身に付けさせるための指導を行う。	(生徒指導)	A
2	1	各種説明会や諸会議を通して、また企業、学校と連絡を取りながら今年度の生徒にとってより効果的な情報を収集する。集めた情報を活用して、進路相談等を充実させる。	(進路指導)	A
		進路行事を充実させて生徒に主体的に進路を考える機会を設けるとともに、進路目標に向かって学習や資格取得に取り組む習慣を身に付けさせ、社会で自立できる生徒を育成する。	(進路指導)	A
	2	これまで進めてきた進路に関する指導のまとめとして、生徒の希望進路に応じた具体的に適切な進路指導及び支援を行う。 作文指導を定期的に取り入れ、文章を書く力を育て、それを基礎として面接に生きるように指導する。	(3学年)	A
3	1	単元ごとに学習プリントを活用して授業理解を深め、基本事項、基礎学力の定着を図る。	(国語科)	A
		基礎的事項に関する小テストを繰り返し行い、定期テストで知識の定着を確認する。	(地歴公民科)	A
		既習事項の確認を重ねて授業を進める。プリント等を用いることで演習量を増やし、基本事項の確認と基礎学力の定着を図る。	(数学科)	A
		読み書きを重視し授業に臨む姿勢を身につける。授業導入で、教科書を読み、展開、まとめにいたるまでノート等を丁寧にとる指導を徹底する。具体的には年間を通して重要語句、記号、数式をしっかりと定着させるためにドリル学習を実施する。	(理科)	A
		単元毎の内容を、プリント等で繰り返し練習させ、定着を図る。	(英語科)	A
		運動を通してのチームワーク作りに努め、協調性を育成する。	(保健体育科)	A
		唐時代や六朝時代の楷書及び王羲之の行書の臨書を通して楷書美、行書美を学ばせる。	(芸術科)	A
		創作を通して自己表現の楽しさを学ばせる。	(芸術科)	A
		鉛筆による明暗や形の基礎的なトレーニングにより、見る力を養成する。	(芸術科)	A
		身近な素材を使つての、形や配色の基本練習により表現力を高める。	(芸術科)	A
		身近な資料の提示や実験実習を多く取り入れたりして興味・意識を高める。	(家庭科)	A
		漢字検定の取得を推奨して、目的意識をもって学習することの大切さを学ばせる。また、長期休業中には課題を与え、学習習慣の定着を図る。	(国語科)	B
		定期的にニュースや時事問題に関する発問や解説を行い、社会事象への理解を深める。選挙権の内容など、政治的教養を育む教育を実施する。	(地歴公民科)	A
授業ノートを定期的に確認し授業に集中する態度を養い、課題を出すことで家庭学習の習慣を身につけさせる。	(数学科)	A		

令和4年度

学校自己評価表(報告)

	2	系統的な理解をするために、小テストを実施して基礎的な内容を定着させる。また、実験や観察を多く実施し、日常生活や工業分野と科学のつながりを実感できるようにする。	(理科)	A
		定期的に単語テストを行う。 学習方法を具体的に示し、家庭での学習も促す。	(英語科)	A
		マラソン大会に向け、持久力を強化し、体力の向上を図る。	(保健体育科)	A
		創作を通して、自己表現する。見る力、表す力を養成する。	(芸術科)	A
		プリント、ノート記入、提出を定期的に行う。	(家庭科)	A
4	1	部活動を積極的に推奨し、達成感と自己肯定感を育む。	(生徒会)	A
	2	生徒会活動、学校行事、部活動を通して集団生活における望ましい人間関係を育成する。	(生徒会)	A
		目標を持たせ、その達成のため地道に努力する忍耐力を育成する。	(生徒会)	A
5	1	各学期に1回、同和教育の視点に立った人権教育を、各ホームルームで実践する。	(人権教育・同和教育推進)	A
	2	外部講師による、全校生徒及び職員対象の人権教育に関する講演会を開催する。	(人権教育・同和教育推進)	A
		教員研修会を年2回(現地研修、校内研修会)行い、差別の実態に学び、生徒への人権教育に生かす。	(人権教育・同和教育推進)	A
6	1	「実習」や「課題研究」等に、ものづくりの項目を多く取り入れ、その成果をできるだけ校外に公開したり、コンテストや競技等に積極的に参加することで、生徒に達成感や充実感をもたせるようにする。	(工業科)	A
		実習内容を充実させ、ガス溶接技能講習や技能検定(普通旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ、機械検査、シーケンス制御、電気系保全、機械系保全、大工工事等)、各種の講習や資格検定に取り組ませる中で、合格率を上げる。また、来年度に向けて、より各科の特色を打ち出せるように実習内容の検討を行う。	(工業科)	A
	2	地域企業や関係機関と連携し、校外実習や外部講師による実習を行い、高度な技能を身につけさせる。インターンシップ(2年)等で就業体験を実施する。工業教育フェスタ、体験入学、出前授業等で地域からの理解を深めてもらう。	(工業科)	A
		インターンシップの事前・事後指導を通じて、生徒が地域の一員であることの意識を醸成するとともに、受入企業等の連携を進める。	(2学年)	A
成果	重点目標1:規律委員や生徒会の生徒などが自主的に活動し、いじめ見逃しゼロスクール運動が定着した。いじめ対策として、学校生活アンケートとアンケートの名称を変え、さまざまな困り毎を拾いやすくしたため、A評価である。 重点目標2:コロナ禍による制限の中、生徒に対して出来る限りの情報開示と進路相談を行い、結果的に3年生は早期の進路内定を得ることが出来た。進路指導部と各学年団で連携し、進路希望実現に向けて、外部講師を招いた進路ガイダンスを可能な範囲で実施した。また、基礎学力向上のための診断テストを効果的に実施したため、A評価である。 重点目標3:基本事項、基礎学力の定着を図るために、基本事項から発展的な内容までを踏まえた学習プリントを作成して授業展開したり、ICTを活用して生徒の学びが深まるよう工夫したため、A評価である。 重点目標4:生徒会役員と規律委員が連携し、目標達成に向け地道に活動している姿が見られた。感染対策をして文化祭や体育祭を実施できたため、A評価である。 重点目標5:人権への問題意識や社会参加意識の形成が生徒に見られたため、A評価である。 重点目標6:地域貢献する活動が進んでいることや、コンテストの成績及び資格取得状況において一定の成果が出たことからA評価である。 [まとめ]今年度の学校自己評価はA評価となった。引き続き、目標設定について不断の見直しを行い、本校の特色化を進め、高評価を維持するよう努めていきたい。			総合評価
				A